

シルバー諸君の力(農業分野編②)

趣味は自分の為のみにあらず

「あなたは、胃がんです。」

これが医師から告げられた受診結果でした。

この医師からの一言が 生涯を傾ける趣味となる、山野草づくりのきっかけになったそうです。今回は、趣味で始めた山野草をリーズナブルで販売し、地域の活性化の一翼を担っている瀬戸繁氏(66歳)を紹介します。

瀬戸氏は、地元の大手企業に勤務していた 45 歳の時、アメリカへの出張を命じられました。アメリカには、日本のような社会保険制度がないため、医療費が高くつくとの事で、出張前に健康診断を受ける次第となりました。これまで病気一つした事がなく健康には自信があり、気楽な気持ちで診断に臨みましたが、結果は、冒頭に述べたよう、胃がんと診断されアメリカへ行くどころか、緊急手術を受け、胃の 2/3 を取る大手術でした。

幸いにも、順調に回復し、数か月後には、職場復帰が出来ました。

瀬戸氏の心には、この経験以来、「**命拾いをしたから、世の中に何か還元したい。**」と言う気持ちが自然にフッフッと生まれてきました。

山野草づくりが趣味となった経緯については、約 30 年前に、奥様が庭に植えていたものを見て、自分でも育ててみようと思った事でした。

元々、松やサツキなどの小品盆栽づくりの経験を持っていたため、山野草づくりについてもスムーズに入ることができ、仕上がった山野草は趣味の範囲を超えた玄人はだしのものばかりです。

平成 10 年 9 月、四季折々に咲く花による地域おこし「あしがら花紀行」の第一回の「酔芙蓉まつり」への参加が、私と瀬戸氏との最初の出会いになりました。

当時、私は、市役所の農政を担当しており、四季折々に咲く花で彩り、都市住民を呼び入れる農業振興策として、「あしがら花紀行」の提案とその実践を行っていました。

最初に仕掛けをしたのは、平成 7 年 11 月、市の北部に位置する「千津島の※ほ場整備地区」を対象にしました。※ほ場整備とは、農作業の効率が図れるよう田畑や農道などを整備する事業のこと

同地区の水田は、二宮金次郎が土手に松を植えた「酒匂川」^{さかわがわ}から水を引き入れ、稲を栽培しています。この酒の匂いのする川「酒匂川」の水に酔って咲く花として物語性がある「酔芙蓉」をメインの花(花木)とする構想を抱いていました。

「酔芙蓉」の名前の由来は、朝、咲いた白い花が、昼には薄いピンク、夕には、濃いピンクと色を変えるため、まるで人がお酒を飲んで顔の色が変わる様子を例えて、名づけられたそうです。

そして、ほ場整備で創出された農道約1kmに酔芙蓉を1000本植え、「**日本一の酔芙蓉農道**」を造ることを千津島地区ほ場整備実行委員会に提案し、2年をかけて完成させました。

酔芙蓉の咲く、平成10年9月に第一回の「酔芙蓉まつり」の開催を計画し、都市住民に喜んでもらう地域ならではの農産物の一つとして瀬戸氏の山野草の出店依頼が実行委員会から出されることになりました。

瀬戸氏が売り出す山野草の姿見の素晴らしさに感心させられると同時に、その販売価格のリーズナブルさに驚嘆しました。

都市住民のために出店依頼をしたのですが、ほとんどの山野草は地元の人々が買い求められてしまいました。しかし、山野草のニーズや酔芙蓉の花の力に確かな手ごたえを感じつつ、3日間の祭りは成功裏に終了しました。

その後、瀬戸氏とは、市内各地で開催されることになる「あしがら花紀行」の花まつりに常時、出店してもらうことになり15年来の付き合いになっています。

瀬戸氏が何故、山野草をリーズナブルな価格で販売するのか、その真髓をお話しします。

瀬戸氏の趣味は山野草づくりと小品盆栽づくりです。

瀬戸氏いわく、「趣味を持つことは、人生を豊かにする時間が持てることであり、趣味に没頭することで精神的な満足度を得ることが出来、日々健康に暮らせる」さらに、「趣味を人のために活かせば、社会への貢献が出来る」とも言っています。

また、リーズナブルな価格設定には、瀬戸氏のアイデアと培った人脈が源泉にあります。

山野草や小品盆栽の入手については、例えば、90歳の方が高齢でこれ以上管理ができない、しかし、枯らしてしまうには忍び難いなど愛着がある品々をリーズナブルに買い入れ、再生して、第三者には、その買い入れ原価で販売しています。(グリーンリサイクルの一つです)

鉢などの容器についても、廃棄物処理業者の方に依頼し、再利用できるものは、ストックしてもらいコストをかけない手法で入手をしています。(リユースの一つです)

このように、アイデアや人脈を駆使し、原価で販売する。まったくの儲けなしのボランティア活動を15年間続け、今後もやり続けることこそ、趣味を活かした瀬戸繁流の社会貢献、世の中への恩返しと考えます。

「人は皆、生きとし生けるしるしあり、命は一つ、心は永久に」 大学時代の教授が残した言葉が、今、瀬戸氏の生きざまとオーバーラップします。

「あなたは、胃がんです。」この医師の一言が**「趣味は自分の為のみにあらず」**を形あるものにした瀬戸氏に心からエールを送ります。

心の花の咲く限り、人が人を思いやる優しい心は、永久に続くものですね。

